

つるエネ通信、一周年です。

新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。
つるエネ通信を初めて1年。毎月発行を心掛けてきましたが、無事1年間毎月発行することができました。読者の皆様へ、FACTをお伝えして、その内容が積み重なっていくようなものにできたら、という思いで発行を始めた本メディアですが、今後も世界に視野を向けたメディアに成長させていきたいと思っています。
新年号ということで、これからについてと、年末に弊社で行った出張授業についてをご紹介します。

最新のエネルギー情報をお伝えします

地域のこと、世界のことに関連した最新のエネルギー関連情報を取材するのも本誌の取り組み。そこで2023年は、主に海外ブランドから日本市場に向けて相次いで発表された電気自動車の取材を、その試乗レポート含めて取り組んでまいりました。

第一弾は、昨年中国BYDが発表したドルフィン。2023年、中国は世界最大の自動車輸出台数を達成しましたが、その代表的会社がBYDとなります。そしてすでに取材した車両として、2023年に発表された韓国ヒョンデのKONAの写真も下記に掲載しております。バッテリーの開発が急速に進んでいる中、2024年・2025年と日本メーカーも電気自動車の発表を控えているだけに、取材内容にも当分困ることはなさそうです。つるエネ通信では今後も、電気自動車に限らず、断熱についてや、熱そのものに着目したエネルギーの最新動向を取材していきます。



韓国ヒョンデ 右が2023年に発表されたKONA。左はすでに発売されているIONIQ5



昨年つるエネ通信で取り上げた中国BYDのドルフィン。2024年にはSEALが発売される予定

KONAに関しては、詳細報告をつるエネ通信の記事にします。ご期待ください。

出張授業を都留文科大学で行いました

2023年の年末は、つるエネルギーの足元である都留文科大学で、出張講義を行うことができました。エネルギーに限らず、広く日本社会の現状と将来についてを、予測データなどを用いて、課題も率直に共有しながら「地域」をどう考えていくかを一人一人に問うような内容にしました。少子高齢化、人口減少、エネルギーと食料自給率が低い現状において、学生さんたちにお聞きしたのは「自分たちの将来に希望を持っているか」という問いです。希望を持つ学生があまりに少なかったことに驚くとともに、つるエネとして何ができるかをまっすぐ考えたいと思いました。



各種統計調査においても、日本の若い世代は、自分たちの将来に希望を持つ割合が先進国の間でも低いことは有名で、それが国民性や文化と解釈されたりもします。つるエネの事業経験を経て、私たちはこれからの社会がより一層、不安定で予測が難しい時代になると考えており、その現実に向き合うためには、「不安定こそ希望」として捉えられる”しなやかな思考”が求められると考えます。常に国際エネルギー市況を見ながら、地域に根差すつるエネルギーは、その知見を活用して、教育分野にも貢献を果たしていきます。